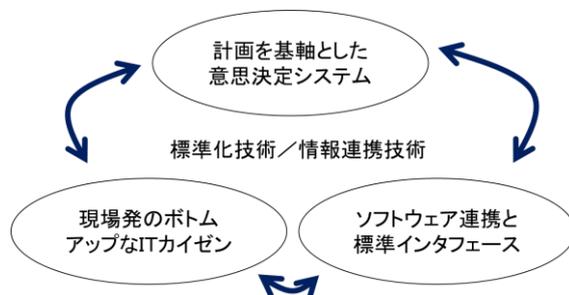


ものづくりAPS推進機構（APSOM）とは

特定非営利活動法人ものづくりAPS推進機構（APSOM）は、我が国の製造業のものづくりのさらなる発展のために活動する非営利団体です。APSOMは、これまで製造業が培ってきたものづくりに関する技術や手法を、ITを用いてより高度化し、企業や業種をこえて相互に連携させた新しいネットワーク時代のものづくりを提案しています。APSOMの活動は、以下の3つの目的に向かっていきます。

- (1) 日本的ものづくりを生かす情報技術を開発し世界にむけて発信する。
- (2) 現場で生まれる知識やノウハウが活用可能なITのインフラを構築する。
- (3) 情報連携によりアプリケーションを有機的につなぎ全体最適を実現する。

APS（Advanced Planning and Scheduling）とは、計画とスケジューリングが融合した新しい意思決定のしくみであり、これからの製造業のITを利活用した情報システムの中核となる技術です。APSOMは、以下の図に示すように、計画を基軸とした意思決定システム、現場発のボトムアップなITカイゼン、そしてソフトウェア連携と標準インタフェースにより、製造業やIT企業が、より戦略的で効果的なものづくりのしくみを構築することをお手伝いしています。



PSLX技術仕様とは

製造業がIT化を進めるにあたり、さまざまな業務ソフトウェアが連携する必要があります。PSLX（Planning and Scheduling on Lifecycle information eXchange）技術仕様は、こうした異なるベンダーのソフトウェアを組み合わせることで全体システムを構築するための標準仕様です。PSLX技術仕様は、国内の生産スケジューラー開発企業のコンソーシアムによって開発され、2005年に国際標準であるIEC/ISO 62264として採用されました。また、この仕様をベースとした開発を行なうために、XMLの国際標準化団体であるOASISの技術委員会よりソフトウェア実装のための仕様が提案されています。

PSLXを用いた業務アプリケーション・ソフトウェアの連携は、APSOM会員企業を中心とした多くの企業においてすでに業務システムとして実装され、その成果が報告されています。各社のソフトウェア製品が、情報連携のためのインタフェースをあらかじめ標準仕様にあわせておくことで、それぞれの製造業の環境に応じて最終的な情報システムを構築する際の工数が飛躍的に減ると同時に、運用開始後もビジネス環境の変化に応じたシステムの改変が柔軟に行えるようになります。

ITカイゼンとは

基幹業務など、エンタープライズ系の情報システムの構築は、トップダウンに業務システムを設計し、それを対象企業の実際の業務に落とし込むアプローチが主流です。これに対して、現在行っている業務や情報の流れを、現場中心に整理整頓し、それをIT化していく過程の中で、最終的に業務間、部門間の連携をとるというボトムアップ・アプローチが提案されています。こうしたアプローチに沿った取り組みを“ITカイゼン”と呼びます。

APSOMは、中堅・中小製造業のIT化において、ITカイゼンが有効であることを、多くの実プロジェクトのなかで明らかにしました。製造業が自分自身でシステムを構築していくことが可能となるITカイゼンの普及のために、APSOMでは、必要なツールの要件や、構築のためのガイド情報などを提供しています。

沿革

- | | |
|-------|----------------------|
| 2001年 | PSLX コンソーシアムが発足 |
| 2002年 | スケジューラー連携の実証実験 (IPA) |
| 2003年 | PSLX 技術仕様バージョン1の勧告 |
| 2003年 | 国際標準への提案活動開始 |
| 2006年 | PSLX 標準仕様バージョン2の勧告 |
| 2006年 | NPO 法人へ組織変更 |
| 2006年 | IEC/I SO国際標準が正式に採択 |
| 2008年 | PSLX プラットフォーム開発スタート |
| 2009年 | ITカイゼンツールの無償配布 |
| 2010年 | 製造業向け業務アプリの無償配布 |
| 2011年 | 東京都の補助事業を受託 |
| 2012年 | 中小製造業向けITカイゼン事例発表 |
| 2013年 | 計画同期生産のためのモデル提案 |

以上